

エゼキエルの巻き物

ジェイコブ・プラッシュ著

エゼキエルは、イスラエルへの裁きがただ差し迫っているだけではなく、それがもうすでに始まっている時に預言していました。捕囚は実行されていました。

わたしがあなたに与えるものを食べよ

『人の子よ。わたしがあなたに語ることを聞け。反逆の家のようにあなたは逆らってはならない。あなたの口を大きく開いて、わたしがあなたに与えるものを食べよ。』(エゼキエル 2 章 8 節)

もし、神さまがお与えになるものを食べなければ、私たちが反抗する者のひとりで見なされます。神さまはエゼキエルに何をお与えになったのでしょうか。それは本のようなものであり、巻き物でした。

『その方は私に仰せられた。「人の子よ。あなたの前にあるものを食べよ。この巻き物を食べ、行って、イスラエルの家に告げよ。」そこで、私が口をあけると、その方は私にその巻き物を食べさせ、そして仰せられた。「人の子よ。わたしがあなたに与えるこの巻き物で腹ごしらえをし、あなたの腹を満たせ。」そこで、私はそれを食べた。すると、それは私の口の中で蜜のように甘かった。』(エゼキエル 3 章 1 節-3 節)

それを食べてください。そして、腹を満たすのです。代謝的に私たちの体は食べている物によって出来ています。これが神さまの「食べなさい」と言われていた巻き物——みことば——です。それを食べることを拒むなら、私たちは反抗する者となります。

巻き物

神さまはこの巻き物について何を語っているのでしょうか。それは聖書の多くの箇所で見られます。

『それから、前に私が天から聞いた声が、また私に話しかけて言った。
「さあ行って、海と地との上に立っている御使いの手にある、開かれた
巻き物を受け取りなさい。」

それで、私は御使いのところに行って、「その小さな巻き物を下さい」と
言った。すると、彼は言った。「それを取って食べなさい。それはあなたの
腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。」

そこで、私は御使いの手からその小さな巻き物を取って食べた。すると、
それは口には蜜のように甘かった。それを食べてしまうと、私の腹は苦
くなった。

そのとき、彼らは私に言った。「あなたは、もう一度、もろもろの民族、
国民、国語、王たちについて預言しなければならない。』（黙示録 10 章
8 節－11 節）

この巻き物はいつも口には甘く、腹には苦いものです。

私たちはみな真実を知りたいと願っています。未来を知ることも望んでいます。
神さまはみことばを通して、私たちに真実を伝え、さらに未来までも教えてく
ださいます。

真実の預言者たち

真実な預言者というのは、まず初めにみことばを学ぶ人です。

ダニエルは未来を知るために、預言者エレミヤの告げたことを熱心に調べまし
た。（ダニエル 9 章 2 節）

彼は熱心に学ぶにつれ、断食と祈りをもって、神さまにより深い理解を求めま
した。

その後、神さまは未来についての幻を示しました。それは歴史上のこの時代に
成就されています。

どうしてダニエルに啓示が与えられたかという、ダニエルはみことばを熱心に学ぶ者だったからです。彼は祈りと断食をもって、神さまに啓示を求めました。このような人を神さまは信頼して真実の啓示を与えられるのです。

走りまわって、「ことばをください。与えてください、与えてください。」と言い、「ことばをもらいました。聞いてください、聞いてください。」と言う、いわゆる預言者たちのような者は、神さまからのことばを持ってはいません。これはある特定の超カリスマ派とペンテコステ教会の間で流行したことがありました。正しい聖書的な預言もありますが、このようなものはそうではありません。

『「わたしの名によって偽りを預言する預言者たちが、『私は夢を見た。夢を見た』と言ったのを、わたしは聞いた。…麦はわらと何のかかわりがあるか。——主の御告げ——』(エレミヤ 23 章 25 節・28 節)

偽りの預言はわらであり、主のみことばは麦です。その人の持っている教理が間違っているなら、預言もおのずと間違っただけのものとなります。真実の預言者は何よりも第一に、みことばを学ぶ人であり、みことばを食べる者です。

神さまは順調な時代ではなく、困難な時代に預言者たちを起こされることが多いようです。新約・旧約どちらにおいても、預言者たちは大変な時代に起こされて、難しい問題を相手にするのです。

エレミヤ

私たちは真実を知り、未来を知ることが望みます。それは私たちの口に甘いものです。しかし、一旦、私たちが真実を知り、未来を知るとそれは私たちの腹に苦くなります—その知識に対して責任を負うからです。一旦、それを食べると、あなたの目は開かれ、そこにあるものがどのようなものかを理解し始めるのです。

『主よ。あなたをご存じです。私を思い出し、私を顧み、私を追う者たちに復讐してください。』

あなたの御怒りをおそくして、私を取り去らないでください。
私があるあなたのためにそしりを受けているのを、知ってください。

私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。
あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。

万軍の神、主よ。私にはあなたの名がつけられているからです。

私は、戯れる者たちの集まりにすわったことも、こおどりして喜んだこともありません。私はあなたの御手によって、ひとりすわっていました。あなたが憤りで私を満たされたからです。』(エレミヤ 15 章 15 節-17 節)

エレミヤがその巻き物を食べたときに何が起こったのでしょうか？エゼキエルに起こったのと同じことです。口には甘く、腹には苦かったのです。そして、戯れる者たちの集まりに座ることが出来なくなりました。

今日、人は神のことばを知らないので、教会を喜劇場に変えてしまっています。その巻き物を食べ、神のことばのもとに来ない限り、彼らは戯れる者たちの集まりに座り続けるのです。私は教会の中で「止められない笑い」や動物の鳴き声をしている人を見たことがあります。神のことばを知らない人たちはそれが聖霊の働きだと主張しています。

エレミヤは巻き物を食べました。そうすると、彼は戯れる者たちの集まりに座ることも、大喜びすることも出来なくなりました。それは、エゼキエルがそう出来なかったのと同じ理由です。

『私はあなたの御手によって、ひとりすわっていました。あなた [神] が憤りで私を満たされたからです。』(エレミヤ 15 章 17 節)

巻き物を食べると、あなたは真実を知り、未来さえ知るので口は甘くなります。しかし、その腹は苦くなるのです。そして、戯れる者たちの集まりに座ることが出来なくなり、ひとり座るようになります。

神の御手がくだるので、あなたは“勝利”や“征服”と笑いながら言う人々と共に座ることが出来なくなります。

イエスが教えられた牧者の主な責任とは、羊を狼から守ることでした（それは間違った教理を明るみに出すことなどです…ヨハネ 10 章 11 節-12 節）。

今日、教会の中には明るみに出されなくてはならない危険な教えが多く存在します。いくつかの例を挙げれば

- 世界中のテレビでよく見られる「欲望にかられた繁栄の福音」
- チョー・ヨンギやベニー・ヒンらが教える「偽りで、異教的な油注ぎの教え」（真実の油注ぎは詩篇 133 篇と出エジプト 30 章などから理解できます。真実の油注ぎはテレビ伝道者らが広めている“移行可能な力”とは全く違ったものです）
- “宗教の融合”へと導く「目的に導かれた社会福音」（リック・ウォレンは「宗教多元主義の未来」について前向きに語っています）

ユダの手紙では、私たちが聖徒にひとたび伝えられた信仰のために**熱心に戦う**よう命じられています（ユダ 3 節）。パウロはこの考えを真剣に受け取って、手紙の中で彼の時代に横行していた間違いを指摘しています。

ガラテヤ人への手紙では教会をモーセの律法の下に戻そうとするユダヤ人たちの教えが明らかにされています。

パウロとヨハネの手紙では、神のことばから離れた特別な啓示があると主張していたグノーシス主義に関して警告がされています。

ユダとペテロ（2 ペテロ 2 章）は、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込む、愛餐のしみについて警告しています。

間違いについてパウロやヨハネ、ペテロ、ユダが公に意見を述べたとき、彼らは歓迎されたとはあなたは思うのでしょうか？ 反対に…

パウロは 2 テモテ 1 章 15 節や 4 章 14 節－16 節を書きました。

『あなたの知っているとおりに、アジアにいる人々はみな、私を離れて行きました。その中には、フゲロとヘルモゲネがいます。』

『銅細工人のアレキサンデルが私をひどく苦しめました。そのしわざに
応じて主が彼に報いられます。あなたも彼を警戒しなさい。彼は私たちのことばに激しく逆らったからです。私の最初の弁明の際には、私を支持する者はだれもなく、みな私を見捨ててしまいました。どうか、彼らがそのためにさばかれることのありませんように。』

ヨハネは 3 ヨハネ 9 節、10 節を書きました。

『私は教会に対して少しばかり書き送ったのですが、彼らの中でかしらになりたがっているデオテレペレスが、私たちの言うことを聞き入れません。それで、私が行ったら、彼のしている行為を取り上げるつもりです。彼は意地悪いことばで私たちをののしり、それでもあきたらずに、自分が兄弟たちを受け入れないばかりか、受け入れたいと思う人々の邪魔をし、教会から追い出しているのです。』

今日、まさにイエスが警告されていた欺きが教会に迫っています。しかし、あなたがエレミヤのようにみことばを食べ、はっきりと語るなら苦味が残ります。ひとりさびしく座ることを当然であると受け止めてください。アモスに対して語られたことが、教会の組織から語られます（アモス 7 章 12 節－13 節）

とりあえず告げなさい

巻き物を食べる時、その口は甘くなり、腹は苦くなります。戯れる者たちの集まりに座ることが出来なくなり、主の御手がぐだり、ひとり座ることを余儀なくされるので、物事はとても困難なものとなります。

あなたが心をささげたいと思い、その命さえも与えたいと思った人々が、あなたに耳を傾けようとしません。

神さまは人々が聞こうとしないことを、前もって告げられます。しかし、「とりあえず告げなさい」と神さまは言われます。

それがエゼキエルに起こったことであり、巻き物を食べると、あなたにも起こることです。「わたしの言うことを聞かなかったのだから、あなたに耳を傾けないであろう」と神さまは言われます。

人々は神のことばに聞き従わなかったため、真実の預言者にも耳を傾けません。彼らはただ独自の教理を考案し、「御霊による笑い」というものや、何か告げたことが起こらなくても、その人を“預言者”と呼び続けたりするのです。次のような預言を考えてみてください。

- 1989年12月31日、オーランド・クリスチャンセンターにて
『主はまた私に 90 年代について語るよう仰せられました。それは 94 年か

ら 95 年以前に起こることです。神はアメリカの同性愛者のコミュニティーを滅ぼされます。(聴衆の拍手) 神は多くの人考えるような方法では滅ぼされません。神は火をもってそれを滅ぼされます。そして多くの者が立ち返って救われ、多くの者が反抗し滅ぼされるでしょう。』(ベニー・ヒン)

この預言が成就しなかったのにベニー・ヒンは未だ世界で最も人気のあるクリスチャンの教師であり続けています。

私たちはにせ預言者たちを、もはや石打ちにすることはありませんが、その罪は同様に深刻なものです。その人たちは悔い改め、預言の奉仕や指導的立場から身を引かなければなりません。

現代の教会はそれを行いません。教会は神に反抗しているのです。それが間違っていると知っているクリスチャンたちでさえ、多くのとき、立ち上がって「間違っている」と言う勇気と誠実さを持ちあわせていないのです。

神さまは、巻き物を食べ、神の御手がくだされるために、恐れず真実を言う者を求めておられます。